

ツノナシオキアミ資源開発調査

(抄 録)

高 坂 祐 樹

ツノナシオキアミの民間船による試験操業の結果を報告した。操業は平成10年2～5月に、三沢地区と泊地区の2地区で行われた。三沢地区では、合計で57回曳網し、7,930kgのオキアミを採集した。採集されたオキアミのうち、7,710kgは市場に出荷された。水揚げ金額は324,030円、平均単価は42円/kgであった。一方、泊地区ではオキアミ濃密群を見つけることができず、操業までには至らなかった。

三沢地区での漁獲物を調べたところ、重量組成で99%以上がオキアミであった。また、オキアミはすべてツノナシオキアミ一種であった。

5月20日に2回の曳網で3トン以上のオキアミが採集された。このときの表面水温は約11℃で、オキアミの漁場となる一般的な表面水温の指標は6～8℃なので、かなり水温は高かったといえる。しかし、6月に行われた定線観測では中層に強い冷水が存在していた。この冷水がオキアミ濃密群の形成に影響を及ぼしている可能性が示唆された。今後、試験操業を継続し、本県太平洋におけるオキアミの生態や企業性を検討していきたい。